

自由民主党

世田谷区議会議員 和田ひでとし通信 第十号

ごあいさつ

今年の夏は、まさに異常気象と言われるような、これまでに経験したことがない集中豪雨による土砂崩れや浸水で、各地で大きな被害が発生しました。いつ、どこで起きるかわからない様々な災害に備えるため、これからも地域・地区の安心・安全のまちづくりをめざして全力でとりくんでまいります。

2014年9月 発行
世田谷区議会議員　和田 秀壽
〒158-0083
東京都世田谷区奥沢 1-40-2
電話 03-3720-3542
FAX 03-3720-6928

局地的集中豪雨に対する備え

この夏は全国的に記録的な大雨や土砂災害による被害が多発し、自然災害とはいえ、特に広島での土砂災害は多くの犠牲者をだし、私たちに大きな教訓を残しました。非常時における対応の重要さはもちろんですが、いま、想定内、想定外という基準そのものが曖昧になっているように思えます。

改めて**自助・共助の取り組み**をしっかり見直しておく必要があるのではないでしょうか。



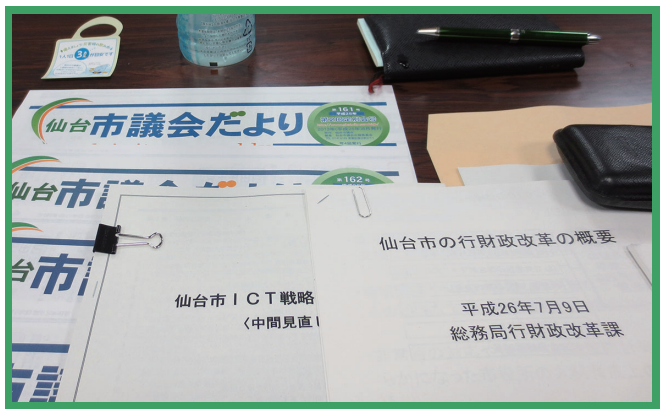
多摩川河川敷で行われた東京消防庁・世田谷区合同総合水防訓練

平成２６年度 企画総務常任委員会行政視察 仙台市・盛岡市

7月9日～10日

仙台市「震災復興に向けた行財政改革の取り組みとＩＣＴ戦略について」

東日本大震災の経験をふまえ、効率的・効果的な行政運営を進める取り組みを視察しました。**なかでも「市民力」を生かす行政モデルの構築、職員力の強化などは、「地区力の向上と地区防災力の強化」をめざす世田谷区にとって大いに参考になりました。**



盛岡市「公共施設保有の最適化と長寿命化について」

厳しい財政状況の中、少子高齢化・人口減少時代の到来に備え、施設の維持管理のさらなる効率化や、老朽化した施設の更新費用の低減・平準化を進める取り組みを行っています。また施設ごとの利用情報や建物情報などをまとめた「施設カルテ」を作成し市民と施設情報の共有化を図る取り組みも行っていました。**世田谷区にとっても、将来人口の推計予測などをしっかりとらえながら、これからの公共施設のありかたについて考えていかなければなりません。**



盛岡市担当者の話を聞く和田ひでとし（写真中央）

平成２６年度 自民党世田谷区議団会派視察

8月6日～8日

子どもの教育に関連する分野を北陸３県４市で視察しました



全学年が一緒に給食を食べるランチルーム（坂井市）

【坂井市】　市立丸岡南中学校はすべての教科がそれぞれの専用教室とメディアセンターを持ち、生徒は毎時間、各教科専用の教室に移動して授業を受ける教科センター方式を採用。また、スクエア制として異学年集団での毎日の清掃や学校行事などの活動を取り入れています。**今、このようないわゆる「縦の関係」がもっと必要なのではないでしょうか。施設面なども含め、大変参考になりました。**

【福井県庁】　福井県学力向上センターを平成２４年に開設し、小学校から高校までの接続を重視した「福井型１８年教育」による授業改善や学習支援、教員の資質向上といった教育課題に取り組んでいます。また、健やかな体の育成として県独自の体力テストに基づく体力向上策の実施や、授業以外での継続的な体力向上策の実践、体力・運動能力調査結果の分析・検証による「体力アップ元気プラン」の作成を行っています。



【金沢市】　金沢市教育プラザは、教育と福祉が連携し、乳幼児から中学生まで、こどもの健全育成を支援する拠点施設として子育てのサポート、子どもに関わる様々な相談、市立の小・中・高校の教職員、市内の保育所・幼稚園の職員への研修と研究支援などを行っています。**教育委員会と福祉局の連携は注目です。世田谷区のマッチングによる政策の推進にも大いに参考になると思います。**



【富山市】　富山市はＰＦＩ手法による統合校新設で個性的なつくりの学校を開校しました。なかでも芝園小・中学校では、９年間の成長を見通した指導をするため、双方の教員が児童・生徒の実態を把握し、協力して指導にあたっており、一部合同行事の開催、集団宿泊学習・部活動等での交流を通して、中１ギャップの解消にも取り組んでいます。**富山市の小中一貫的連携教育は、９年教育「学び舎」を推進している世田谷区にとって、おおいに参考になると思います。**



今後の予定

- **和田ひでとし　区政報告会**
  - 10月25日（土）19時～20時　九品仏地区会館
  - 10月27日（月）19時～20時　東玉川地区会館
  - 10月29日（水）19時～20時　奥沢区民センター
- **世田谷区議会 第４回定例会**
  - 11月25日（火）～12月４日（木）

インターネットで「和田ひでとし」と検索してください！

和田ひでとし　検索

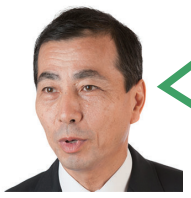
あなたのご意見をお聞かせください！
info@wadahidetoshi.com

平成２６年 第２回区議会定例会 一般質問より

「地域資源を活用した介護予防の取り組み」



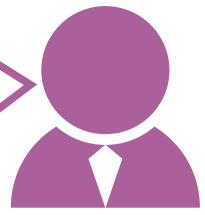
健康寿命を延ばし、いつまでも元気で地域で生活していただくことはだれにとっても大切な事であり、また介護保険法でも「国民の義務として自分で健康保持に努めること」と述べているように、誰もが真剣に介護予防に取り組んでいただく必要があると考えます。



QUESTION

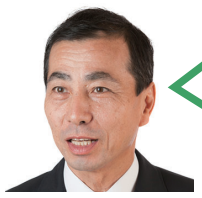
今後、介護予防のためにも、自主活動団体に対する場所の確保について、可能であれば学校施設の利用、また地元の企業など民間施設も含めた地域資源を幅広く利用することはできないでしょうか。
区のお考えを伺います。

ANSWER



高齢福祉部長

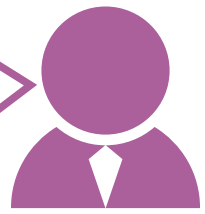
介護予防の取り組みは継続的に行うことが重要であり、高齢者が活動を続けるためには、身近な生活圏域の中で通いやすい会場を定期的に確保することが必要であると考えております。介護予防の自主活動の推進に向け、お話しのありました学校など、地域に根差した施設や民間施設など、関係所管とも連携し、会場確保の方策を工夫してまいります。



QUESTION

場所の次は指導者の確保についてです。介護予防のための、地区で活動する自主団体の指導員の確保についてはどのように行っていくのでしょうか。
区のお考えを伺います。

ANSWER



高齢福祉部長

区が今年から開始した介護予防・日常生活支援総合事業は、多様なマンパワーや社会資源の活用等を図りながら、要支援者・二次予防事業対象者に対して介護予防や生活支援サービス等を総合的に提供するとされております。今後もボランティアも含めた地域の人材の発掘・活用に努め、自主事業の支援を継続していく必要があると考えております。

「在宅子育ての区の支援について」



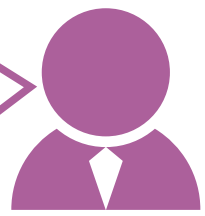
区長の召集挨拶の中でも「在宅子育て支援の多様な場の提供と充実にもより一層力を入れていきます」とありました。特に０・１・２歳児を抱える親にとっては２４時間３６５日、まさに休みなしで子育てという状況であると思います。



QUESTION

近くに実家でもあればチョット困った時、助けてもらうこともできるかもしれませんが、それもできない若い親たちにとって日々の子育てが苦痛になってしまう現状があるようです。このように約７割の在宅保育で頑張っている親たちを支援していく区の取り組みの、現状について改めて伺います。

ANSWER



子ども・若者部長

利用ニーズの高まりが見られる理由を問わない一時預かりにつきましては子育てステーションなど７カ所で実施しておりますが、平成２４年度以降３カ所の子育てステーションにおいて預かりの対象年齢を０歳児まで拡大して実施し、乳幼児の育児不安の軽減を図ってまいりました。さらに２６年度は新たな取り組みとして「おでかけひろば」３カ所で一時預かりについても実施するということで開設したところでございます。



“三つ子の魂百まで”と昔から言われます。せめて幼稚園入園までは親もとで育てたいという思いで子育てを頑張っている親たちが大勢いる中で、保育施設の整備と併せて、区にとって在宅保育を支援していく事は大変重要な取り組みであると思います。



QUESTION



今年度予算で「子ども子育て応援都市」の実現を表明している世田谷区の、在宅保育の支援に関する今後の取り組みについて伺います。

ANSWER



子ども・若者部長

次期子ども計画の策定に向けたニーズ調査などの調査結果を踏まえ、「おでかけひろば」の拡充、児童館や保育園での在宅子育て家庭に向けた事業の充実など、多様な施策を通じて、在宅で子育てをされている保護者の方の負担感を少しでも軽減し、子育てに喜びと楽しさを実感できるよう、さらなる環境整備に努めてまいります。

「ＡＥＤの設置状況について」



より多くの区民がＡＥＤの利用方法を覚えておくこと、設置場所を知っておくことが安心のくらしにつながると思います。また夜間、休日などに利用できるＡＥＤが限られてしまうのも問題だと思います。



QUESTION

現在ＡＥＤの設置が空白となっている地域をなくさなければなりません。区内のＡＥＤ設置空白地域の今後の課題を区はどのように考えているでしょうか。



ANSWER



世田谷保健所長

今後区内のＡＥＤ設置場所をさらにわかりやすくするためホームページの地図情報「せたがやｉＭａｐ」において公共施設でのＡＥＤの設置場所をお知らせするなど検索しやすい環境の整備を検討してまいります。